

## 2 練馬区の主な特性

### (1) 人口の動向

人口増が続いているが、近いうちに減少局面を迎える可能性も  
練馬区は、これまでほぼ一貫して人口が増え続けてきました。

平成 26 年 10 月 1 日現在の総人口は 714,567 人です。特別区では 2 番目、  
全国でも 21 番目の大都市です。

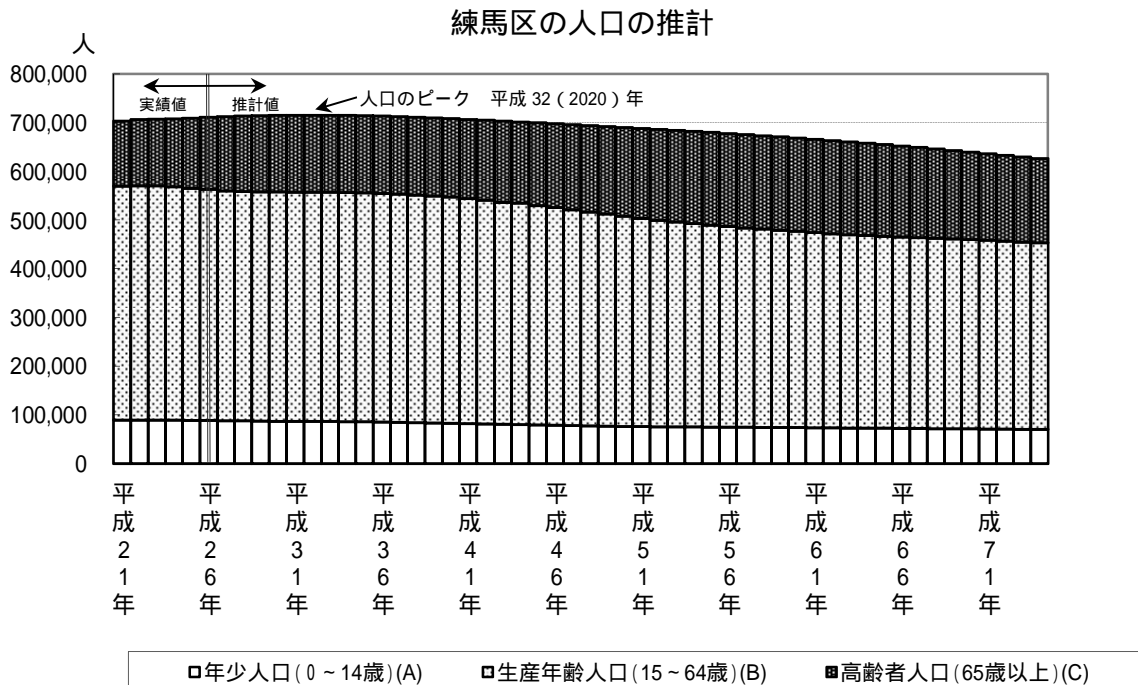
ビジョン策定にあたり、過去 5 年の推移に基づく将来人口推計を行ったと  
ころ、平成 32 (2020) 年をピークに、人口が減少していくと予測されていま  
す。この推計は、リーマンショック後の不況や東日本大震災の影響により近  
年人口の伸びが鈍化していたことが影響していると考えられますが、いずれ  
にしても近い将来、練馬区も人口減少局面を迎える可能性を示しています。

高齢化が着実に進む

高齢者比率は確実に高まっています。平成 26 年 1 月 1 日現在では 20.8%  
でしたが、平成 56 (2044) 年には 28.0%に達すると見込まれます。

単独世帯が著しく増加し、高齢者の単独世帯が増加しています。

生産年齢人口(15歳～64歳以下)は平成 26(2014)年の 474,426 人から、  
平成 56(2044)年には 414,589 人と約 13%減少すると見込まれています。



[ 出典 ] 練馬区企画部資料

年少人口、子育て世帯の比率が高い

年少人口の比率が 12.5%と、都や区部平均より高くなっています。18 歳未満の子どもがいる世帯の割合も高く、ファミリー層が多くなっています。

保育所の増設など保育サービスの充実を進めていますが、保育所・学童クラブとも待機児童が発生しています。

長期居住者が増加している

区民意識意向調査では、区内に 21 年以上在住している住民の割合が、平成 15 年の 49.8%から平成 25 年には 55.6%に増加しました。また、「練馬区に住み続けたい」という定住意向は、平成 15 年の 67.4%から平成 25 年には 81.0%と、10 ポイント以上の高まりを見せています。

夜間人口が多い

平成 22 年の国勢調査では、昼夜間人口比率は 82.1%と、23 区で一番低くなっています。

## (2) 地勢・土地利用

都心に近い立地、なだらかな地形

練馬区は、東京都 23 区の西北部、都心に比較的近い位置にあります。面積は 48.16 km<sup>2</sup>で、23 区では 5 番目の広さです。地形は、海拔約 30m から 40 m 前後の武蔵野台地と石神井川、白子川の沖積低地により形勢され、西側が高く東側に行くにつれて低くなっていますが、ほとんど高低差がなく、なだらかです。

地質は、上総層群と呼ばれる比較的固い第三紀層の上に武蔵野砂礫層が 7 ~ 8 m の厚さで重なり、その上を関東ローム層が 7 ~ 10m の厚さで覆っていて、一般に支持力の強い地盤上にあるといわれています。

宅地が 6 割

土地利用では、宅地が 6 割を超えています。

みどり豊かで農地が多いが、減少の懸念

緑被率は 25.4%で、23 区で最も高くなっています。民間所有等の樹林地を区民に公開している憩いの森・街かどの森も約 10.7ha と、23 区で最も多い面積となっています。

緑被地の中では宅地等のみどりや農地など民有地のみどりが約 8 割を占めており、今後の減少が懸念されます。

農地面積は約 230ha と 23 区で最大となっていますが、相続時の税負担や後継者不足などにより平成 4 年の約 488ha から半減しています。

## (3) 交通基盤

鉄道の整備は進んでいるが、空白地域も存在

区内には、西武池袋線・豊島線・新宿線、東武東上線、東京メトロ有楽町線・副都心線、西武有楽町線、都営地下鉄大江戸線が運行しており、全体として交通アクセスは良くなっています。しかし、区北西部には、鉄道駅から 1 km 以上離れている鉄道空白地域が存在しています。

都市計画道路の整備率は低く、特に西部地域が低い

区内の都市計画道路の整備率は約 49.9%で、23 区平均の約 63.8%を下回っています。特に西部地域の整備率は約 29.0%と低く、南北方向の道路整備の遅れが目立っています。

日常生活の移動の負担になっている踏切

区内には、踏切が 36 か所（練馬区近接も含む）あります。その中には遮断時間が長い踏切もあり、日常生活の移動の負担になっています。

#### (4) 防災・産業・文化

区民防災組織の活動

区内には、区民が自主的に設立・運営している避難拠点運営連絡会や防災会など約 410 組織の区民防災組織があります。日頃から初期消火や救出・救護、避難誘導、避難所運営などの訓練に取り組み、災害に備えています。

区内事業所のほとんどが中小企業

区内には、約 2 万の事業所があり、その約 9 割が、従業員 20 人未満の小規模事業所です。

平成 24 年の経済センサスでは、卸売・小売業が最も多く、次いで建設業、飲食サービス業、不動産業の順となっています。従業者数では、卸売・小売業、医療・福祉業が多いのに対し、全国や東京都と比べ製造業の比率は低くなっています。

アニメ関連の事業所が集積しており、全国で最も多くの企業が立地しています。

商店街は、商店会・会員数とも減少傾向にあります。

病院・病床が少ない

区内の一般・療養病床のある病院は、平成 20 年の 19 病院から 2 病院減少し、17 病院となっており、区民が入院する際は区外が約 7 割近くになっています。

一般・療養病床数は 23 区で最も少なく、人口 10 万人あたり 281 床（平成 26 年 9 月現在）で、23 区平均の約 3 分の 1 となっています。

江古田駅周辺に 3 大学が立地

江古田駅周辺には、日本大学芸術学部、武蔵大学、武蔵野音楽大学の 3 大学が立地し、学生のまちを形成しています。

区立・民間の文化芸術関連施設

区立の文化施設として、練馬文化センター、大泉学園ホール、生涯学習センター、美術館、石神井公園ふるさと文化館等があり、区民に活動や鑑賞の場として利用されています。また、ちひろ美術館・東京や光が丘美術館、唐澤博物館など、民間の文化施設もあります。

#### (5) 住宅都市としてさらに発展していく可能性

人口の動向や土地利用、交通、産業構造など、全体として、みどり豊かな環境と都心に近い利便性が両立する良好な住宅都市としての特徴が表れています。

一方で、今後解決しなければならない課題も抱えています。

区の特性を活かす施策を進めることで、人口減少社会にあっても活力のあるまちとして、さらに発展していく可能性を有しています。